

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスこっこと。		
○保護者評価実施期間	2024年 2月 1日		2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2024年 2月 1日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	モニタリングのみならず、日ごろからの連絡、共有、連携が密であり、子どもを預けることに対する安心感や信頼があること。	イベントの様子をブログやInstagramなどのSNSで積極的に発信している。 日ごろから送迎時やリトム(日誌)、LINEや電話など様々な場面で些細なことでも逐一共有している。	今後も継続して密に共有を行い、安心してお子様を預けられるような施設づくりを目指していく。
2	各種イベントの企画をはじめ、子どもたち自身が喜んで通い、通所を楽しんでもらえるような環境が整っていること。	毎月のイベントの企画を、直近の者と差別化を図りながら行っている。 イベントがマンネリ化しないように、常に新しいジャンルのイベントを検討、模索している。	イベント一つ一つの質を上げ、お子様が興味を持つきっかけになるような幅広いイベントを企画していきたい。
3	施設が広く、L字型になっているために、子ども自身が自分の居たいスペースで過ごすことができること。	L字型の施設の中で、座って遊ぶスペースと体を動かして遊ぶスペースに分けている。 宿題をしている子がいるときはボール遊びを避けて集中できる環境を作る声掛けをするなど、他児の存在を意識させた支援を行っている。	視覚的にわかりやすいように座るスペースにはマットを敷き、そちらでは体を動かす激しい運動をしないよう明確に分けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用回数を増やしたいというご希望にこたえられない場合が多いこと。	多くの児童を受け入れており、また継続的に利用したいと希望されるご家庭が多いため、ご利用枠に空きがない状態が続いている。	年度末の時期に利用者の方々に連絡をし、利用率を調整してなるべく多くの方が利用できるように調整していく。
2	職員の異動等が多く、人員の入れ替わりが多いこと。	新店舗の開店が定期的であり、そのたびに人員の入れ替えが起きてしまうことが要因。	異動等に際して、あらかじめご家庭等に挨拶を行い、早い段階で伝えることでギャップを埋める。
3	保護者同士での交流など、外部の人間が施設の活動に参加する機会が少ないこと。	プライバシー保護の観点等から、地域の住民の方を招待する活動などの計画が難しい。	保護者参加型のイベントの企画を行い、保護者同士のつながりも作りたい。